

2019（令和1）年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2019（平成31）年4月1日

至：2020（令和2）年3月31日

評価基準日 2020（令和2）年4月1日

学校法人栗岡学園
阪奈中央リハビリテーション専門学校

《 学校関係者評価 評価委員 》

(敬称略：五十音順)

委員長	川口	正一郎
委員	大原	敏敬
委員	川原	勲
委員	酒井	真紀
委員	谷川	優香
委員	前原	園代
委員	宮野	博

《 評価項目の達成および取組状況 》

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取組

《 自己評価回答責任者 》

作業療法学科 学科長
理学療法学科 学科長
事務局主任

教育分野 (以下に点検・評価する教育分野の番号を○で囲んでください。)

①リハビリ 2 看護

5段階の自己評価				
5	4	3	2	1
+		ふ		不
	←	つ	→	+
分		う		分

1 教育

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	臨床現場で信頼される理学、作業療法士を目指し、知識、技術のみならず社会人として通用するよう指導にあたっている。	令和2年度入学生から、動物介在療法、スポーツに関連する科目を開講し、本学の特色を打ち出すとともに多様化する理学、作業療法士へのニーズに対応したカリキュラムに改定した。	4	協会が提示するコアカリキュラムを基盤に教育内容の見直しを図り、学習の効率化、効果的な教育手法を取り入れる必要がある。卒業要件を見直し、国家試験合格率向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ●特色ある科目を導入され、すばらしい取組だと感じる。卒業後の進路とつながりができれば、さらによくなると思う。 ●他校では学べない動物介在療法・スポーツ関連科目など特色がみられ、魅力的である。 ●スポーツや動物介在療法は両者とも話題性のあるカリキュラムです。そういった特徴的なカリキュラムを取り込み、職場へのニーズをかなえるいい案であると思います。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	時代のニーズに即し、生活行為向上マネジメント、予防リハ、がんリハなど現代のリハビリテーション医療に不可欠な内容をカリキュラムに反映している。	知識・技術、情意・態度のバランスのとれた人材を輩出し、現場からも高評価をいただいている。さらに職域を拡大するため、学修内容の見直しを定期的に行うことが必要。	4	引き続き信頼される理学、作業療法士の育成を目標とし、職域の拡大や時代の変化に対応したカリキュラムに設定する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ●OB会の活用などにより、現在現場で必要とされている知識・技術・人材などリサーチするなど考慮すること。 ●実習等でも学生からは圧倒的に実技に自信がないという訴えが多いです。職場のニーズとしても即戦力が問われる時代ですので、もう少し実技の講義を増やすカリキュラムにすると良いかと思います。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	新カリキュラムでは、学年ごとの学修時間の差が最小限となるよう再編した。	専門性をより高めるため、専門科目にやや比重を置いた設定とした。	4	新カリキュラム開始後に問題点が生じた時は早急に改善するように努める。	●適切である。

4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	科目ごとの学修計画および成績評価の方法と基準が明確となるよう、フォーマットの見直しを行った。	フォーマットを見直すことで内容のばらつきが減少した。	4	担当講師がインターネット等で原稿を直接入力できるシステムなどの構築を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ●以前より見やすくなっている。 ●直接入力はシステム上必要だと思いますので、是非実現して下さい。 ●インターネット等を利用することで後の保管も簡便になりますし、記入も行いやすくなると思います。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	理学療法、作業療法教育ガイドライン、臨床実習ガイドラインなど最新の動向も捉え、定期的に各学科で協議している。	各種教育学会や研修会に向き、最新情報を入手し、計画に反映するよう心掛けている。	4	各種団体の要求水準と本校のカリキュラムを対比し、いち早く国、協会の水準に近づけるため、活発に意見交換をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ●適切である。 ●非常に重要で、カリキュラム委員会の設置は必須。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	最新の教科書の中から、学生の状況や国家試験の出題範囲を考慮し、原則、科目担当講師が厳選している。	学生の現状とレベルが合致しない場合は、適宜テキストの変更を提案していく。	4	コアカリキュラムに則った知識が得られるような教科書や教材を精査すると共に、学生の現状を講師に伝え、担当講師に、より適切なテキストの提案をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ●国家試験合格レベルであり、最新の知見も入れながら、採用していく必要がある。 ●学生の現状のレベルに加えて他校のテキストや教材選択を参考にすることもいいかと思います。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	原則シラバス等で到達目標が示され、各科目で求める能力を問う試験を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標の設定は各講師に一任してきたが、科目判定会議、進級判定会議を定期的に行い、厳正な評価に努めている。 ・理学、作業療法養成課程のコアカリキュラムが明示されたため、これに対応する必要がある。 	4	コアカリキュラムで示されている学修目標を取り入れた目標に加筆、修正する。新たに求められる能力要素があった場合は、それも含めて成績評価ができるように修正する。	<ul style="list-style-type: none"> ●学生や保護者などに分かりやすい判定であること。また、到達目標は高すぎたり、低すぎたりしないこと。 ●担当講師の一任のみの判定では評価にバラつきがみられるため、学校責任者達（教員全員）でこまめに話し合いを行う必要があると思います。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	授業アンケート結果から、ほとんどの講師が学生の理解度に沿って授業を展開している。	学修範囲が広い科目では中間評価を実施するなどし、学生の理解度を確認しながら進めている。	4	学生による授業アンケート結果を担当教員や講師に適宜フィードバックし、次年度に向けた講義内容の調整を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ●適切である。 ●アンケートでは学生により回答のムラがあるため、小テストなどで客観的に講師が学生の理解度を認識する方がいいのではないのでしょうか。

<p>9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか</p>	<p>1年次よりグループ学習や学力アップ講座を積極的に取り入れ、専任教員が個々の学生への対応を行っている。</p>	<p>現在課題となっている専門基礎科目の学力不足を補うべく、作業療法学科では「専門基礎演習」科目を新設した。理学療法学科では空きコマを活用し各学年で学力の補填を実施している。ただしカリキュラム外の活動が過剰にならないようにバランスを取りながら進める必要がある。</p>	<p>4</p>	<p>新設科目で学習した内容や特別な補填が、専門科目や臨床実習にどのような効果を与えているか経過を追う。その結果を基に内容を見直していく。</p>	<p>●学生の学力不足は、実習施設に多大な負担をかけることとなる。実習前に一定のレベルになるよう補習等を実施することが望ましい。 ●個々での学生対応に加えて、グループ学習を多く取り入れた方が、学生同士のモチベーション向上にもつながり、学力不足を補えるかもしれません。</p>
<p>10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか</p>	<p>全教員が適宜指導している。臨床でのマナー・身だしなみ等については普段の学校生活から適宜指導している。</p>	<p>1年次から社会人、医療人に求められる姿勢、態度についてきめ細かい指導を実施している。</p>	<p>4</p>	<p>本校の教育方針の意図を学生、保護者に正しく理解いただけるよう綿密なコミュニケーションをとってゆくとともに、今後も教職員が手本を示し、職業人としてのマナーやルールについて教育していく。</p>	<p>●適切である。禁煙することが望ましい。 ●「行事予定」の中に、特定の日を設定して取り組む方法を考慮することも有り。 ●特に医療に携わると、マナーに厳しい施設もあります。学生のうちから細かく指導を行うことが望ましいです。</p>
<p>11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか</p>	<p>以下の内容に取り組んでいる ・認定理学、作業療法士取得 ・講義担当科目に関する研修会 ・学会発表 ・査読つき論文投稿 ・学位（修士、博士）取得準備</p>	<p>学科内で業務を調整しながら研修・研究等にかかる時間を確保する。スキルアップについて各自目標設定し、セルフマネジメントを継続していきたい。</p>	<p>4</p>	<p>リハビリテーション医療の変化に対応した講義内容にするために計画的、積極的に学会や研修会に参加し、情報収集していく。また我々の教育効果を検証するためにも学会発表や研究活動を精力的に行い、教職員全体のスキルアップを行っていく。</p>	<p>●適切である。教員は学位を取得していることが望ましい。</p>
<p>12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか</p>	<p>講義の終講時に授業アンケートを全科目に対して実施している。</p>	<p>評価結果は希望に応じ閲覧できるようにしている。非常勤講師が授業評価を把握する方法の改善は必要である。</p>	<p>3</p>	<p>今後もアンケートは継続し、さらに、教員の能力開発の一環として、専任教員、非常勤講師ともにアンケート結果をフィードバックし、講義方法等を見直す機会を作っていく。</p>	<p>●授業アンケート評価が低い非常勤講師は変更するなど、強い姿勢で臨むべきである。 ●自己評価³は、授業・教育改善の具体的な手段の検討が必要かも。 ●講師へのフィードバック法をしっかりと見直す必要があると思います。場合によっては、アンケート内容の開示も効果的になるかもしれません。</p>

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	教室等の部屋数や付帯設備に関しては十分である。ただ、一時期において、不足が生じることもあるが、学科間で調整を行っている。	講義棟、実習棟合わせて教室の数は十分であるが、HR 教室で単位認定試験を行うにはやや狭いため、別室で行う必要がある。 視聴覚設備は充実しており、授業進行はスムーズである。	4	単位認定試験の実施教室は、レクレーション室や大研修室を活用している。HR 教室でも試験を実施できる対策を検討する。	●適切である。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか（有効に活用されていますか）	・蔵書数は基準を満たしている。四条寮看護校から本校講義棟 3 階に移設した。 ・メディカルオンラインの導入により、実習中の文献検索が容易になった。	アクセス面が改善されたため、利便性が向上した。	5	配架を効果的に行い、利用の促進を図っていく。	●適切である。 ●貸出のシステムも充実されているのでしょね。 ●実習等で利用しやすいように文献検索の幅を増やすことができるといいと思います。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	実習教室については十分な数と広さがある。一部の検査機器、研究機器については動作不良を認めるものがある。	新規購入及び更新が必要な備品に関しては年間購入計画を作成し補充・更新していく。	3	新規購入の必要な機材、修理が必要な機器の管理を徹底し、学修に影響が出ないように努める。	●備品の買いかえなどを積極的に進めており、問題ない。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか（有効に活用していますか）	・各教室のプロジェクターやマイクについては利用しやすい環境である。 ・学内ほぼ全域を Wi-Fi 接続可能にしている。	・教育環境としては充実している。 ・パソコン教室のネット環境は未整備である。	4	パソコン教室も Wi-Fi 接続できるようにし、文献検索などが学内でできるように整備していきたい。	●適切である。 ●最優先課題だと思います。 ●文献検索はネットで行うことができると効率的ですので Wi-Fi 接続が可能な環境を整えることが学生のためにもいいと思います。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか（有効に活用されていますか）	・男子寮、女子寮を保有している。 ・女子寮はキャンパス敷地内にある。	・女子寮には住込みの管理者を配置している。 ・男子寮・女子寮ともにオートロック付きの入口で、セキュリティ面は安心である。	5	女子寮入口が鍵からカードキーになり、利便性が向上した。	●適切である。

6. 体育館や運動場などを保有していますか（有効に活用されていますか）	・体育館、運動場ともに保有している。 ・保健体育や卒業式などの式典で利用しているほか、和幸会グループのクラブ活動などにも活用している。	地域にも開放している。関連病院と連携し、競技復帰前のスポーツ選手も活用している。	5	体育館は学生が普段から利用しやすいように管理・運営方法を検討する。	●適切である。 ●有効活用されていて良い。 ●地域への交流を深めるためにも、利用の解放を定期的に行っていくべきだと思います。
-------------------------------------	--	--	---	-----------------------------------	--

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	学校関係者コメント
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	担任制をとっている。問題のあった学生については、毎朝のミーティングや会議にて担任だけでなく、全教員で対応を検討している。	演習・臨床実習では、全専任教員指導体制により、個々のレベルに応じ、きめ細かい教育ができています。さらに随時面談を実施し、学科全体で学生の情報を共有している。	5	教員の事務業務の効率化を図り、一層の教員の指導力と資質向上に努め、学生個々のレベルに応じたきめ細かい教育を継続していきたい。	●学生に対して、教員全体で対応しており、継続していくこと。 ●定期的に学生との面談を行うことで、学生の問題点や改善点を見つけることができ、より勉強への向上心が生まれると思いますので、今のこまめな面談を継続すべきだと思います。
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	学生本人の申し出または教員が必要と認められた場合は関連施設の臨床心理士のカウンセリングを推奨している。	臨床心理士と教員が連携し、担任だけでは対応しきれない問題のある学生については、臨床心理士に対応を委ねることもある。	4	現状では十分な環境が整っていると思われる。	●適切である。
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	大学生ホール、小学生ホールを2部屋、各所にソファが設置されており、休憩時には学生が有効利用している。	講義棟の開設により学生用スペースはかなり充実している。	5	特に問題はない。	●適切である。
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	食事場所は原則教室と学生ホールを開放している。学内に売店はないが、弁当の注文販売を毎日、パン・飲料等の出張販売を週に2回行っている。	弁当の販売、パンの販売、自動販売機などで購入の選択肢を広げている。自動販売機の商品はカップ麺や菓子パンの他、お菓子などを販売している。	5	食事場所のスペースは十分である。自動販売機の商品の種類や価格については随時検討していく。学外ではあるが徒歩圏内にドラッグストア、コンビニエンスストア（イトイン）もあり、利便性は更に向上している。	●学内に売店はないが、近隣にコンビニ等があり問題ない。

5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構の奨学金を中心に案内している。 ・独自の支援制度としては、診療費補助制度や特別学費支援制度、家族割引制度がある。 	一般病院から奨学金の案内をいただいている。	4	日本学生支援機構や一般病院等の奨学金に加え、高等教育無償化認可校となった。	●適切である。
6. その他 国家試験について	現役生の国家試験合格率には課題があるが、既卒者については本校独自のフォローアップ制度を利用し、高い合格率を維持している。	既卒者の受験者に対しては、専属で教員を配置し、綿密な計画のもとアクティブラーニング等も取り入れ、個々の学生の弱点克服に取り組んだ。	4	長年にわたり国家試験対策を担当した教員の教育力、分析力が高まっており、これまでの経験を次年度の国家試験対策に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ●適切である。 ●自己評価5を目指して頑張ってください。また、5にならない理由は？ ⇒ 5にならない理由として、現役生の国家試験合格率に課題があり、今後はその点を改善する必要があると考えております。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みについて

◇脳卒中患者会との教育連携ならびに社会貢献活動

- ①奈良県の脳卒中患者会2団体の会員の方々には複数回にわたり模擬患者として協力いただき、学内でありながら現場と同等の環境で学習する機会を作ることができた。
- ②在宅でのリハビリテーションを勉強する患者会の会合に年間を通じ学生がボランティアで参加し、活動を支援するとともに医療者としての素地を養う機会となった。

◇ホースセラピーへの取り組み

- ①11月に、講師として東京農業大学の川嶋准教授、NPO法人ピスカリ様にお越しいただきホースセラピー特別講義を開催した。
- ②今後も特別講義を開催する予定である。

◇スポーツリハへの取り組み

- ①高等学校の体育系クラブ部員を対象としたメディカルサポート事業を実施した。
- ②奈良県立登美ヶ丘高等学校など近隣の高等学校の生徒が来校し、本校の理学療法学科教員と学生が共同で高校生のメディカルサポートを実施した。

◇出前講座の実施

- ・四條畷市立田原中学校のキャリア教育講座（2年生）に講師派遣し、作業療法士の職業紹介及び体験指導を実施した。

その他・ご意見等（学校関係者）

- 卒後、直ちに臨床で活躍できる人材の育成に努力されていることが伺えます。今後更に教育環境の充実と、講師陣の体制強化が望まれます。(川口委員長)
- 学外の関係団体・高校・大学教授等との取組は、御校の教育について広める機会ともなり、今後ともすすめていくべきと思う。特に高校との連携は、学生募集にもつながるため、積極的に行うべきと思う。(大原委員)
- 学校独自のカリキュラムとしてホースセラピーに取り組んでおり、全国的にも珍しい。治療効果が報告されており、魅力的である。ハード面・ソフト面とも充実しており、特に最新の機器を購入して講義に活用している。質の高い講義内容は、学生のモチベーション維持につながっている。(川原委員)
- 全体的に自己評価も高く、大きな問題なく運営されているように感じた。又、新たな取り組みもされており、益々発展される事を期待します。(酒井委員)
- 動物介在療法やスポーツリハビリ等、注目度の高いカリキュラムを組み込み、世間へアピールすることで、入学者の増員も見込めますし、在生もそういった経験を行うことで、より卒後のビジョンを描くことができ、勉強への向上心も増すと思うので、良い取り組みだと思います。(谷川委員)
- すばらしい取り組みです。社会貢献活動、地域の学校との連携などを通して、社会から学校に対しての評価が上がってくると思われます。(前原委員)
- 出前授業のターゲットを高校を主とすることが大切だと思われるし、校数も増大させたほうがよいと思う。又、メディカルサポートも、より一層の充実を期待したい。 / ICTの展開を組織的に重要視されているかどうか、読み取りにくい。 / 卒後に向けてグローバルな視点は必要なのか、また必要ならば対策は？ / 「学生サービス」は充実されていて、申し分がないと思います。(宮野委員)

以上